

## 第 4 回 AUI 研究会の記録

日時: 2013 年 11 月 18 日 (月) 17:30-19:30

会場: 早稲田大学 19 号館 713 会議室

司会: 松岡俊二 (早稲田大学アジア太平洋研究科教授、AUI 推進機構理事長)

報告: 遠藤 乾 (北海道大学公共政策大学院教授)

テーマ: 欧州統合と欧州大学院 (EUI): アジア地域統合と AUI 構想への示唆

コメンテーター: 中村英俊 (早稲田大学政治経済学術院准教授)

出席者数: 25 名

記録: 龍原 梢 (早稲田大学アジア太平洋研究科修士 1 年)

### 1. 概要

遠藤先生が、欧州統合と欧州大学院大学 (EUI) との関係を欧州統合の歴史的経緯を含めて講演した。具体的には、EUI の設立の歴史的経緯および様々な問題を抱える欧州統合の現状と課題について考察し、アジア協働大学院 (AUI) 構想に向けた東アジア地域協力への教訓についても言及した。その後、中村先生から大学論の見方なども含めたコメントがあり、参加者で総合討論を行った。

### 2. 報告

EUI は、欧州共同体加盟国がヨーロッパ社会の文化的・科学的な発展に寄与するために国際条約に基づき設立したもので、大学院生および博士研究員などによる外交特権を持つ国際組織である。EUI は 1976 年に開校したが、EU の正式機関ではなく、政府間条約に基づく政府間機関である。欧州委員会および条約署名国から資金提供を受けている。EUI は、国際的学術機関として、経済学、歴史と文明、法、政治と社会の 4 部門および総合研究組織としてロベール・シューマン・センター (RSC) という研究所を持っている。EUI は、EUI 締約国からの各種奨学金、EU 機関 (研究教育) からの補助金、イタリア政府からの資金供与によって運営されている。

第 2 次大戦後、アメリカとソ連の対立が深まる中、東欧のポーランドやハンガリーで共産党の一党体制が成立していった。共産党の影響はチェコスロバキアの国内政治にも影響を及ぼしていった。1948 年 2 月にチェコスロバキアのプラハでクーデターが起こり、共産主義政権が樹立された。ソビエト勢力の拡大に対する危機感は、西側連合国の地域共同体構想を促進した。こうした中、1948 年 3 月、西欧同盟 (WEU) が、冷戦期における西ヨーロッパ諸国における防衛に関する合意事項を提唱し、ブリュッセル条約機構が成立した。

1948 年、ハーグ会議において、スペインの政治家、思想家であるサルバドール・デ・マダリアーガが、第 2 次世界大戦中の敵対国を含む様々な国の大学出身者と共に研究し、生活するための「場」として欧州大学院大学 (College of Europe) の設置を提唱した。また、欧州文化研究所を設立したスイスの連邦主義者であるド・ルージュモンが、文化・教育の観点から、欧州統一を提唱した。1948 年 10 月には国際組織である欧州運動が設立され、1949 年 1 月、ロンドン文化分科会において欧州大学大学院の設立案が提出された。1949 年 5 月には、国際協議機関である欧州審議会 (Council of Europe) が設立され、同年 12 月に欧州文化会議において、欧州大学大学院の設立が合意された (1950 年 6 月に College of Europe 創立)。

1950 年 5 月 9 日、フランスのロベール・シューマン外相が、ドイツとフランスの石炭および鉄鋼の全生産を共通の機関の管理下におくことを目的とした計画としてシューマン・プランが発表された。また、石炭と鉄鋼を平和的に管理し、軍事対立防止のために、1951 年 4 月、欧州石炭鉄鋼共同体 (ECSC) がパリ条約によって設立された。その後、欧州文化評議会による欧州文化の奨励により、1950 年 10 月、スイスのジュ

ネーブに欧州文化研究所（CEC）が設立された。

1953年6月から7月に、欧州12カ国により、CERN（欧州原子核研究機構）条約が締結され、翌1954年には、パリにおいて欧州文化条約が締結された。その後、1961年には教育文化枠組条約が合意された。ECSCの設立後、欧州防衛共同体（EDC）創設の動きがあったものの、フランス国民議会が創設の批准を拒否したため、EDCの創立には至らなかった。1955年6月、イタリア・シチリア島のメッシーナにおいて、ECSCの外相会議が開かれ、欧州経済共同体（EEC）および欧州原子力共同体（Euratom）の創設が決定された。実はこのEuratom条約の中に欧州大学院の話が出てくる。

1955年には、西ドイツのハルシュタインにより、ECSCの6カ国による科学技術、人文社会科学の分野における欧州大学を創設することが提案された。ハルシュタインは、既存の諸大学の連合や、研究プロジェクトや単科大学（college）としてではなく、単一の欧州大学（European University）を創ることを提案した。また、同年、WEU主催による欧州学長会議（ケンフ・リッシ・第1回大学学長会議）が開催された。

1956年、西ドイツ代表であるヘードリッヒは、原子力研究を中核とした科学・芸術・医学・法における欧州先端研究所（European Institute of Advanced Studies）を創ることを提案した。また、大学創設に際し、西ドイツおよびイタリアは人文科学を中心とした大学の創設を主張した。一方、フランスは科学技術に特化した研究機関を創ることを主張した。

現在のEUIは、EU・ヨーロッパ研究の分野において、最高の権威を誇っている。しかし現在では、同様のヨーロッパ学を専門とする各国の大学の進出により、ヨーロッパ学としてのプレゼンスが相対的に低下しつつある。EUIは、ヨーロッパ学の拡散と衰退、グローバル化への対応の遅れ（欧州中心主義による）、EU政策との連携不足などにより、College of Europeに遅れをとっているとも言える。

EUIの設立過程には、様々な抵抗勢力の存在、大学に対する不信感、国ごとの戦略やアジェンダの違いから、政府間の合意を得る事に困難があり、EUI設立には多大な時間を要した。アジア協働大学院（AUI）設立に関しても多くの時間を要するものと考えられる。アジア協働大学院（AUI）の制度設計の際には、エリート養成を目指す独立型私学組織であるCollege of Europe（ベルギー・ブルージュ）を目指すのか、または、研究機関としての政府組織型の欧州大学院EUI（イタリア・フィレンツェ）を目指すのかといった制度選択が必要であろう。また、大学設立のための資金拠出源（メインスポンサーとなる国・機関等）についても考えなくてはならない。東アジア地域協力への教訓として、アジア協働大学院（AUI）設立には、重点分野・研究分野等を明確にし、新たな学問の創成に向けた制度設計が必要であると考えられる。

### 3. コメントおよび総合討論

現在、国際政治学者であるD・ミトラニによるEU統合のダイナミズムをどのように捉えるかといった機能主義統合理論を研究している。当時、ミトラニは連邦主義へ疑問を抱き、機能主義の立場を一貫することで、ヨーロッパの地域統合ではなく、世界統合を目指した。EUI設立では、1950年代から既に欧州大学創設の構想が存在しながら、1970年代になってようやく設立されるに至ったプロセスが、国境を越えて大学院が創られる際のダイナミズムをどのように理解すべきかを示している。こうした観点から、アジアにおいて、国民国家を超えた国際的な地域大学院大学（アジア協働大学院）の構築が実現可能かどうかを検討したいと考えている。

また、日本における大学の創設は、近代の国民国家形成のプロセスの歴史であった。ヨーロッパにおいては、中世に創設されたユニバーサルな大学が、やがて国民国家ベースの大学となっていった。これらを踏まえて、欧州と日本との大学論の違いも考えたいと思う。さらに、新しい教育機関を作り出す際に既存の伝統校に与えた影響、新たな学問の創成のプロセスについても、EUI設立の経験から考えてみたらよいのではなかろうか。